

提唱

### 地神経と百万遍

一 庶民信仰伝承の今日的意義を

会員 羽 柴 弘

去る一月十五日、佐伯史談会が招かれて宮崎県北川町瀬口のお頭神社のお祭りに参加した。そして珍らしくも今回はその神前に地神経（じじんぎょう）が奏げられた。それはこの地にあった玉来山空泉寺が地神経を誦む音階によつて法燈がまもられ、佐伯惟治をここに祀つて今日に至つたのも、音階―地神経によつてであることを思えば、今回のこの企てはまことに意義ふかいものがある。

言うまでもなく地神経は琵琶を弾奏して誦みあげられるもので、何宗がたずねかけたが僧侶によつてであり、その経文の中には般若心経もあるが、いわゆる地神経をはじめとして、八百四拾の、全国の神々を大権現大菩薩大明神と呼び上げていた、数珠を普高く鳴らせ拍手を高々と、神道修験の道と仏教をちよんばんじしたような勤行であり、この地神経が広く盛んに行なわれた時代の、庶民習俗が急になつかしく感ぜられるのである。

二日おいた一月十八日、大入馬日向泊の観音庵で、百万遍の催しがあるというので、史談会は現地研修として出かけた。十一時前に到着したがすでにほじまつていた御本尊の前で千八十顆の大数珠を、南無阿弥陀仏の合唱で、善男善女がくる法会で、鐘の音がそのリズムをくり下している。浄土宗に属する行事であるという。私達も次々とその中に加つて、猛スピードでまある大数珠をく

つた。

この観音様は昨日が胡帳で、百万遍が終つてから潮谷寺から御出張の御所さんによつて胡帳の行事があり、満堂の参拜者によつて観音和讃などがあげられた。そしてすべてが終つて賑やかな餅まきがあつた。

一体この二つの宗教的習俗が、よくもまあ今日このように守られてつづけていゝことである。百万遍の方は日向泊りでは正・立・花月三年三回、きちんとつづけて、しかも盛大につづけられていゝというから驚きである。

農村地帯では庚申祭とか川祭、漁村では煙子祭とか魚鱗供養とか。海や山で渡狸、狩獵の人達、不狸がつづけばいわゆる獵祭りもするであらう。一或は大漁、大獵で獵祭りをするものか。山林で働く人々の山の神祭、河川や井垣関係では水神祭り、又神仏尊崇の同志によるお伊勢講、お大師講、石鏡山まいりのお山講、あげれば限りがない。今どればほど残つて行なわれているらう。

村里には路傍にお地藏さんがあり、湖麿堂や不動堂や阿弥陀堂や稲荷さん、その外にももののお堂や祠や石像がまつられていゝ。それらはあるにはあるが、果して今も庶民信仰の対象として生きていゝのであらうか。

また聞きたい。昔は盛んによく行われていた雨乞いや虫送りの習俗、それをもつて体験したことのある老人の生きていゝうちに記録に残したい。記録といつても一番手軽な方法が、録音して残す、訪問して聞き書きと、写真にとつておくなどであるが、こゝで佐伯・南郡・全蔵に直つて、身近にある庶民信仰の姿をまよめて見たいものである。

わが史談会の組織をあげて、こうした民俗調査をやつて見たいと思ふが、どんなふうか。（以上）